

開催案内：

The 2019 CQ World-Wide WPX RTTY Contest

2019年2月9-10日

開始：0000 UTC 土曜日 終了：2359 UTC 日曜日

I. 目的：全世界のアマチュア局がコンテスト期間中に、できるだけ多くの局・プリフィックスとコンタクトをすること。

II. 運用時間：48時間。シングルオペレーター局は48時間中の30時間まで運用できる。
- 休息時間はログにQS0が記録されない期間で、最低60分であること。マルチオペレーター局は48時間フルに運用できる。

III. 周波数帯：3.5、7、14、21および28メガヘルツのみ。
確立されたバンドプランの遵守が強く推奨される。

IV. コンテストナンバー：RSTレポート + 最初のコンタクトを001とするシリアルナンバー。注：マルチオペレーターの2TXとマルチTX部門は、それぞれのバンドで別々のシリアルナンバーを使用のこと。

V. 得点計算：

A. 得点：最終得点は、QS0得点合計に異なるプリフィックスの数を乗じて算出される。

B. QS0得点：同一局との交信は、1バンド1回のみ得点として計上できる。

1. 異なる大陸間のコンタクトは、3点(28/21/14MHz)または6点(7/3.5MHz)

2. 同一大陸内の異なるエンティティ間のコンタクトは、2点(28/21/14MHz)または4点(7/3.5MHz)

3. 同一エンティティ間のコンタクトは、1点(28/21/14MHz)または2点(7/3.5MHz)

C. プリフィックスマルチプライヤー：プリフィックスマルチプライヤーは、有効な交信のプリフィックスの数とする。それぞれのプリフィックスは、バンドや交信回数に関わらず、1回だけカウントする。

1. プリフィックスは、文字／数字の組み合わせでコールサインの始めの部分のこと。

例：N8, W8, WD8, HG1, HG19, KC2, OE2, OE25, LY1000 ほか

数字や文字、あるいはそれらの順番の違いは、すべて違うプリフィックスとしてカウントする。

コールサインの示すエンティティとは別の場所（DXCC エンティティ）から運用する局は、ポータブル表示をすること。ポータブル表示のプリフィックスは、現地のエンティティ、コールエリアで使用が許可されたものであること。ポータブル運用においては、ポータブル表示がプリフィックスとなる。例：ウェーク島から運用する N8BJQ は、N8BJQ/KH9 または N8BJQ/NH9 を表示する。KH6XXX が Ohio から運用する場合は、米国の 8 エリアのプリフィックス (/W8, /AD8 など)を使用する。

ポータブル表示に数字がない場合は、2 文字目のあとにゼロ (0) をつけてプリフィックスとする。例：PA/N8BJQ は PA 0 とカウント。

数字無しのコールサインはすべて、最初の 2 文字の後にゼロ (0) をつけてプリフィックスとする。例：XEFTJW は XE 0 とカウント。

海上移動、モービル運用、/A, /E, /J, /P あるいは、ライセンスクラスの表示はプリフィックスにカウントしない。

2. スペシャルイベント、記念や珍しいプリフィックスの局の参加を奨励する。プリフィックスは当該国のライセンス発給機関から付与されたものであること。

VI. 参加部門：

A. シングルオペレーター部門：すべての運用とロギングを一人（1オペレーター）で行うこと。いかなる瞬間においても送信は1波のみ。

1. シングルオペレーター・ハイパワー（オールバンドまたはシングルバンド）：合計出力が 1500 ワットを超えないこと。

2. シングルオペレーター・ローパワー（オールバンドまたはシングルバンド）：合計出力が 100 ワットを超えないこと。

3. シングルオペレーター・QRP（オールバンドまたはシングルバンド）：合計出力が 5 ワットを超えないこと。

B. シングルオペレーター・オーバーレイ部門： シングルオペレーターの参加者は、CATEGORY-OVERLAY と呼ばれるヘッダーをキャブリロ・ログ・ファイルに追記することにより、以下の部門うちの1つに参加することもできる。オーバーレイ部門は、結果発表でハイパワーとローパワーにグループ分けされる。

1. トライバンダー／シングルエレメント（TB-WIRES）： コンテスト期間中、参加者は、一つの 10、15、20m 用トライバンダーアンテナ（任意の形式、ただしアンテナと送信機の間が1本のケーブルで接続されていること）と、40、80m はシングルエレメントのアンテナを使用する。

2. **ルーキー (ROOKIE)**: この部門の参加者は、コンテスト開催日において、アマチュア無線の免許を最初に受けてから3年以内であること。最初に免許を受けた日付をログの SOAPBOX に記入すること。

C. マルチオペレーター部門 (オールバンドのみ): コンテスト期間中最終スコアに寄与する運用を、二人以上のオペレーターで行える。送信する信号の数によって以下のなかから部門を選択する。

1. **シングル TX (MULTI-ONE)**: いかなる瞬間においても一波のみの送信が許される。バンドの切り替えは毎時(00~59分)10回までに制限される。例えば、20メートルから40メートルに移り、その後20メートルに戻った場合は、2回のバンド変更と見なされる。すべてのログに対して、一つの続き番号を使用すること。

a. **ハイパワー**: 各送信信号の合計出力が1500ワットを超えないこと。

b. **ローパワー**: 各送信信号の合計出力が100ワットを超えないこと。

2. **2 TX (MULTI-TWO)**: バンドが異なれば、いつでも最大で二波までの送信が許される。どちらの送信機もすべての局とコンタクトできる。どちらの送信機での QSO にかかわらず、同一局とのコンタクトは1バンド当たり1回のみ。**ログにどちらの送信機で QSO したかを明記すること。**(CQ主催コンテスト用キャブリロ・テンプレートの81桁目)それぞれの送信機は、毎時(00~59分)8回までバンドを変更できる。各バンド毎に、個別の通し番号を使用すること。各送信信号の合計出力が1500ワットを超えないこと。

3. **マルチ TX (MULTI-UNLIMITED)**: 各バンドに一波、最大、5波の信号をいつでも送信できる。5バンドでの同時送信も可能。各バンド毎に、個別の通し番号を使用すること。各送信信号の合計出力が1500ワットを超えないこと。

D. チェックログ: ログのチェックを支援するために提出される。得点は順位に反映されず、ログが公開されることはない。

VII. アワード:

シングルバンドのログはシングルバンドのアワードのみ対象となる。1つ以上のバンドを含むログは、シングルバンドエントリーとして指定されなかった場合、オールバンドのエントリーと判断される。シングルオペレーター局がアワードの対象となるためには、最低4時間の運用が必要。マルチオペレーター局がアワードの対象となるためには、最低8時間の運用が必要。

A. 賞状: すべてのカントリー、およびアメリカ、カナダ、ロシアおよび日本の各コールエリアの、各カテゴリー第1位の局に与えられる。

B. 楯: 楯とトロフィーはいくつかの対象部門の、最高の成績に対して与えられる。楯の対象部門とスポンサーのリストはwww.cqwxrtty.com/plaques.htmを参照のこと。

参加1局に対し1つの楯のみ受賞対象となる。楯の受賞者はサブ部門のアワード対象とはならない。盾は、その部門の次点者に与えられる。

VIII. クラブ対抗: メンバーから提出された得点の合計がクラブの得点となる。クラブ対抗には、二つの部門がある。

A. USA クラブ: 参加は、クラブの区域の中心から半径 250 マイルの円内に居住し運用するクラブ・メンバーに限られる。(クラブの円内に住むメンバーによって行われる、コンテストのため特に計画されるペディションを除く。)

B. DX クラブ: 参加は、クラブが所在する DXCC カントリーかクラブの区域の中心から半径 400 キロメートルの円内に居住し運用するクラブ・メンバーに限られる。(クラブのエリア内に住むメンバーによって行われる、コンテストのため特に計画されたペディションを除く。)

C. クラブ対抗の一般ルール:

1. 全国組織 (例: JARL、REF、DARC) は、クラブ対抗には参加できない。

2. シングルオペレーター部門の参加者は、一つのクラブにのみ得点を計上できる。マルチオペレーターのスコアは、ログに示されたクラブ・メンバー数の比率で複数のクラブに分配できる。ログには、クラブのフルネームを記載すること。(かつ、マルチ OP の場合はクラブへの配分も)

3. 結果発表に掲載されるためには、最低 4 局からログが提出されていること。チェックログとしての参加はクラブ スコアとしてカウントされない。

IX. 用語の定義:

A. 運用場所: すべての送信機、受信機およびアンテナが配置されているエリア。すべての送信機、受信機、アンテナは直径 500 メートルの円内に収まっていること。すべてのアンテナは、送信機と受信機に物理的に RF 伝送用ケーブルで接続されていること。

B. QSO アラートニングアシスタンス:

信号のコールサインやマルチプライヤーの識別をオペレーターに提供する、全ての技術手段や情報源の利用。単一チャンネルの RTTY 解読器を除く。

これには、広帯域の複数チャンネル RTTY 解読器、DX クラスタ、DX スポットティングウェブサイト(例: DX Summit)、ローカルやリモートのコールサインと周波数をデコードする技術(例: CW スキーマ、リバースビーネットワーク)、あるいは他者を介しての運用の打合せなどが含まれるが、これらに限定されるものではない。

X. すべての参加局に適用されるルール:

- A. すべての参加局は、最終スコアに影響を与える全ての活動をそれぞれが選んだ部門に定められた範囲内で運用しなければならない。
- B. 複数の部門への参加は、別々のコールサインを使用すること。スコア増加には参加局のコールサインのみが使用できる。
- C. いかなるバンドにおいても選択した部門に定められた合計出力制限を越えてはならない。当該バンドの合計出力は、動作しているアンプの出力端で測定する。
- D. QSO アラートینگアシスタンスは、すべての部門で使用できる。
- E. セルフスポットまたはスポットを他局に依頼することは禁止。
- F. 遠隔操作による運用は、すべての送信機、受信機およびアンテナの、物理的な位置が1カ所である場合にのみ許される。遠隔操作局は局免許、従事者免許および参加部門の制限を遵守すること。使用するコールサインは、局所在地の監督当局によって発行されたか、許可されたものでなければならない。
- G. 運用場所の外部におけるリモート受信は禁止。
- H. いかなる場合も、一つのバンド内では1波のみの送信が許される。2台以上の送信機が同一バンドで動作可能な場合、いかなる瞬間においても1波以上の送信を防ぐためのハードウェア装置を使用しなければならない。同一バンドで2つ以上の周波数で交互にCQを出すことは禁止。
- I. 交信の勧誘（要求）、呼び出しに対する応答、コールサインの記録およびナンバー交換は、すべてコンテストのモードおよび周波数を使用して、コンテストの期間中に行われたものであること。
- J. データ・ベース、録音、電子メールあるいは他の方法を使用して、コールサインやナンバー交換などログの事後修正を行うことは禁止。
- K. ログに記載されたコールサインは、参加者によるQSOにより、オンエアで交換したものであること。
- L. RTTY (45.45 ボー, 170 Hz シフト) のみが使用できる。

XI. ログ提出方法：コンテスト中あるいはコンテスト後のログ処理にコンピューターを用いている参加者は、電子ログでの提出が義務づけられる。

- A. ログはすべて（それぞれ）の交信について以下の項目が表示されていること：正確な日付とUTC時刻、周波数（またはバンド）、コールサイン、送信したシリアルナンバー、受信したシリアルナンバー。これらの記載がないログはチェックログ扱いとなる。交信完了後ただちに記録されていること。ワールドと大陸のアワードを目指す局は、正確な周波数をログに記載しなければならない。

B. シングルバンド参加者は、コンテスト期間中の(他バンドを含む)すべてのコンタクトを記載すること。キャブリロ・ヘッダーまたはサマリー上に明記された参加バンドのコンタクトのみが得点計算に用いられる。一つのバンドのみのコンタクトが記載されたログは、シングルバンド部門での参加と見なされる。

C. キャブリロ形式がログの標準形式である。キャブリロ・ヘッダーの詳細に関しては、WPX RTTY コンテストのウェブサイト<<http://www.cqwxrtty.com/logs.htm>>を参照のこと。ヘッダー部分の表記の間違ひは、他の部門へのエントリー替えやチェックログの扱いになるので注意。注：米国の局はキャブリロ・ヘッダーで運用地点のARRL セクションを表記すること(例 LOCATION : OH)

D. ウェブ・アップロードによるログの提出が推奨される。ウェブ・アップロードは<www.cqwx.com/logcheck/>からできる。

電子メールで提出することもできる。キャブリロ形式のログを <rtty@cqwx.com>に送ること。電子メールの"Subject:"は、コールサインのみとする。

E. キャブリロ形式以外の電子ログを提出するには：キャブリロ形式のログが提出できない場合は、コンテストディレクターに他の形式での提出について相談のこと。

F. 紙ログの提出先：CQ WPX RTTY Contest, P. O. Box 1877, Los Gatos, CA 95031-1877, USA. それぞれの紙ログには、すべてのスコア計算、部門、参加者の名前と住所をブロック体(筆記体ではなく)で記入したサマリーシートを添付すること。

G. 受付確認：受け取ったすべてのログは、電子メールで確認される。受け付けられたログのリストは<www.cqwxrtty.com/logs_received>で見ることができる。

H. ログの撤回：参加者は、ログ締切から 30 日以内であれば、理由を問わず、提出したログを撤回できる。方法についてはコンテストディレクターに連絡のこと。

XII. ログの締め切り：

A. すべてのログは、コンテスト終了後 5 日以内に提出すること。2019 年 2 月 15 日 2359 UTC 必着。締め切り後に再提出されたログは、締め切り後の提出と見なされる。

B. ログ締め切りの延長は電子メールで <questions@cqwxrtty.com>に申請する。延長申請には正当な理由が示され、かつ、締め切り日前に受領されていなければならない。ログ締め切り延長はコンテストディレクターの確認をもって認められる。

C. 締め切り後の提出または消印のログは、結果に掲載されるが、アワードの対象とならない。

XIII. 判定：CQ WPX RTTY コンテストコミッティは、コンテスト・エントリーの審査と判定についての責任を有する。参加者にはルールの遵守と最良のアマチュア無線運用が期待される。

コンテストルールの違反やスポーツマンらしくない行為に対してはコミッティの制裁措置がとられる。

A. スポーツマンらしくない行為： 以下に挙げる行為が該当するが、これらに限らない：

1. コンテスト中に、電話、電話、インターネット、インスタントメッセージ、チャットルーム、IP 電話、ソーシャルメディアやウェブサイトなどといった、アマチュア無線以外の手段で、QSO をアレンジしたり確認する行為。
2. 許可（免許）の範囲を超える（免許逸脱した周波数による）送信。
3. バンド切り替えや休息時間のルールに合わせるため、ログの時刻を修正する行為。
4. 過度の確認できない QSO やマルチプライヤーの記載が認められること。
5. 送信電波の帯域の過度の広がりや、他のバンドへの高調波の存在。
6. 適切な時間間隔（例えば 1 分間隔）で自局のコールサインを云わずにランニング運用をすること。

B. オブザーバー・プログラム： コミッティは参加者に対して、コンテストの参加者にオブザーバーの訪問を受け入れるよう求める場合がある。参加者が、コミッティが任命したオブザーバーによる、コンテスト期間中の十分なアクセスを拒んだ場合、失格となることがある。

C. ルール違反对する処置： 違反があった場合は、コミッティの裁量で参加者は失格となることがある。

1. 失格となった局はコンテスト結果の最後に記載され、アワードの対象外となる。
2. コミッティの決定はログ提出時に提供された電子メールアドレスに通知される。通知を受けた参加者はコンテストディレクターに対して通知を受けてから 5 日間、コミッティの決定に対してアピールすることができる。アピール期間終了後に決定は最終となる。
3. コミッティはログの審査その他の情報に基づいて、参加部門を変更する権利を留保する。

D. ログ審査： 提出されたログはカスタム・ソフトウェアと人間の判断により審査される。

1. 重複交信は除外されるがペナルティは課せられない。

2. ナンバーを間違えて受信した場合、交信は除外されるがペナルティは課せられない。
3. コールサインの間違、または相手方のログに該当する交信が見当たらない交信は、得点計算から除外され、その QSO 得点分のペナルティが課される。
4. マルチオペレーター参加局でバンド切り替えルールに違反する交信は除外されるが、ペナルティは課せられない。

XIV. 宣誓: CQ WPX RTTY コンテストにログを提出することによって、ログ提出者は次の 4 項目に同意したとみなされる。CQ WPX RTTY コンテストにログを提出することにより、また、CQ WPX RTTY コンテストコミッティのログ審査にかかる努力を考慮して、参加者たる彼/彼女は、取り消し不能かつ無条件に同意する。

- 1) コンテストの規則を読み、そして理解し、それらの規則によって規制されることに同意する。
- 2) 参加者は運用地のアマチュア無線に関するすべてのルール、法律に従って運用した。
- 3) 参加者のログは一般に公開される可能性があることに同意した。
- 4) コンテストコミッティの失格その他の決定はオフィシャルかつ最終的なものであることに同意する。

もし、上記のすべてに同意できない場合はエントリーしてはならない。あるいは、単にチェックログとしてエントリーするべきである。

CQ WPX RTTY コンテストのルールに関する質問は questions@cqwxrtty.com にメールのこと。

この翻訳は JA コンテスト向けに利便性を提供する目的で Mako, JA1XS と Hisami, 7L4IOU により作成されています。

オリジナルの英語版があくまでも公式なものです。